

在宅生活支援技術	2年・後期	1単位	准教授 川村 牧子他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310862

1. 授業のねらい・概要

本科目は、在宅療養を支える訪問看護ステーションの成り立ちや訪問看護師の役割について学ぶと共に、訪問看護を行うために必要な支援技術である看護過程、および日常生活のケアや医療的ケアを受けながら在宅生活を送る療養者への看護方法について学ぶ。併せて、地域包括ケアシステムにおける多職種との連携について学ぶ。

2. 学修の到達目標

1. 訪問看護ステーションの成り立ちや訪問看護師の役割について理解する。
2. 訪問看護の特徴を踏まえた看護過程について理解する。
3. 日常生活のケアや医療的ケアを受けながら在宅で生活している療養者への看護方法を理解する。
4. 地域包括ケアシステムにおける多職種との連携について理解する。
5. 家庭訪問のマナーおよびバイタルサインの測定技術を身につける。

3. 授業の進め方

グループワーク、個人ワーク、ロールプレイを取り入れ、実習につながる授業を行う。

4. 授業計画（演習）

<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の世界（川村 牧子） 2. 訪問看護ステーションの制度・成り立ち（川村） 3. 訪問看護師の役割①（島田昇） （日常生活のケア・医療的ケアの基本） 4. 訪問看護師の役割①（島田） （医療的ケアの基本・在宅での看取り） 5. 訪問看護師の役割②（石原・川村） （地域包括ケアシステムと看護職・多職種連携） 6. 訪問看護師の役割②（川村） （多職種連携・社会資源の活用） 7. 資源マップ作成（川村） 8. 家庭訪問のマナーとバイタルサインの測定 （島田・川村・采谷洋子） 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 家庭訪問のマナーとバイタルサインの測定 （島田・川村・采谷） 10. 在宅看護の看護過程（島田・川村・采谷） （事例展開） 11. 在宅看護の看護過程（島田・川村・采谷） （事例展開） 12. 在宅看護の看護過程（島田・川村・采谷） （発表とディスカッション） 13. 在宅看護の看護過程（島田・川村・采谷） （発表とディスカッション） 14. 訪問看護師の役割①（山路聡子） （訪問看護における医療的ケアの実際） 15. 訪問看護師の役割①（山路） （在宅終末期ケア 在宅での看取りの実際）
--	---

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）60%、ロールプレイと事例展開40%で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：押川真喜子(2020)：新訂版 写真でわかる訪問看護アドバンス, インターメディカ。
 臺有桂ら(2022)：ナーシング・グラフィカ在宅看護論① 地域療養を支えるケア, メディカ出版。
 正野逸子・本田彰子(2015)：看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術, メガカルフレンド社..
 参考文献等：講義中、適宜資料配布する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

事例展開の予習（事例を読み込み、アセスメントシート、療養者の全体像シートを記入）を行う。また、講義で行った内容を復習すること。

8. 受講上の留意事項

在宅看護学実習の先修科目である。

本科目は在宅看護学実習の直近の科目であり、実習目的・目標を達成するための基礎となる重要な科目である。予習・復習を十分に行い、講義やグループワークに積極的に参加すること。また本科目は家族看護学と連動している科目である。

9. 課題に対するフィードバック方法

提出された課題は教員が確認して返却する。内容が不備なものは再提出を求める。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。

1 1. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における看護師としての実務経験，行政機関及び医療機関・地域包括ケア関連施設における保健師としての実務経験を活かして，演習を行う。